

<目次>

脱脂粉乳・全粉乳情報	不安定な動き	… 2-3 頁
バター情報	米国産 欧州産価格に近づく	… 3-4 頁
カゼイン情報	市況に引きずられ上昇探る局面	… 4-5 頁
チーズ情報	独 DMK 社、独 Hochwald 社、長期固定乳価プログラム開始	… 5-6 頁
ホエイ情報	米国産ホエイパウダー在庫重く、欧州産相場は上値重い	… 6 頁
乳糖情報	依然低調が続く	… 7 頁
国内情報	都府県の生乳生産減産傾向が止まらず	… 8-9 頁
主要生産国の現行乳価		… 9 頁
メルボルン駐在員情報	Fonterra 社 豪州 7 工場の生産設備増強 集乳量約 50 万トン増加	… 10 頁
米国駐在員情報	鈍化する米国のオーガニック牛乳市場	… 11-12 頁
アムステルダム駐在員情報	EU 脱脂粉乳介入在庫売り渡し状況	… 13 頁
出典		… 14 頁

<粉乳情報>

―相場、不安定な動き―

―EU―

EU産脱脂粉乳相場は依然低調であるものの、EU政府介入在庫の放出入札に動きが見られた。

18年1月19日に行われたEU政府介入在庫の放出入札において脱脂粉乳が1,864トン落札されたが、この結果はこれまで落札された数量の中でも一番多い数量となった。また、最低価格はEUR 1,190/mtで先月比較EUR 200/mt下値をつけての落札価格となった。EU委員会がこの価格水準を受け入れた背景として、賞味期限が迫った在庫を処理したいという思惑があると考えられている。急落する乳脂肪相場の影響を受けてEUの各サプライヤーが乳価を下げつつある状況もあり、脱脂粉乳の国際相場はなかなか反発し難い環境となっている。2月22日に行われる次回放出入札では、EU委員会が更なる下値を受け入れるのかが注目される。

EU産全粉乳相場は先月から一転、強含んだ。域内需要は引き続き安定しており生産量も好調を維持している。

―オセアニア―

NZでは雨不足が続いて牧草が育たず、昨年(2017年)12月の生乳生産量は前年同月比、2.6%の減産となった。一方、豪州では好天に恵まれ同11月は前年同月比、4.3%増。

粉乳相場は歴史的に見れば低水準の域を脱していないが、下記gDTの結果の通り、脱脂粉乳、全粉乳共に反転した。上述のNZの天候不良が一番の要因と考えられる。EU政府介入在庫の入札において低価格ながら落札量が僅かに増加したこと、加えてオセアニアの生乳生産のピークが過ぎたこともあり、今後については急激に下落することは考えにくい。

最新のgDTの結果は下記の通り。脱脂粉乳・全粉乳共に上昇。

(2018年1月16日開催、同年1月2日比較)

脱脂粉乳: USD 1,818/mt FAS(船側渡し価格)、+7.0%

全粉乳 : USD 3,010/mt FAS(船側渡し価格)、+4.3%

―米国―

米国の生乳生産は引き続き好調であり、昨年(2017年)12月の生乳生産量は1.1%増。好調な生乳生産に支えられ、NFDM(*)の生産も増加しており同11月は前年同月比、9.7%増となった。今のところ、供給面での不安要素は見当たらないものの、旺盛な国内需要が更に伸びるようであれば、今後輸出向けの数量が減少する可能性はある。

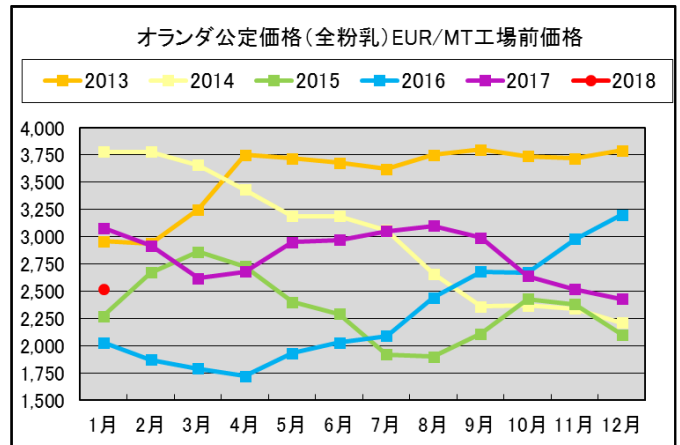
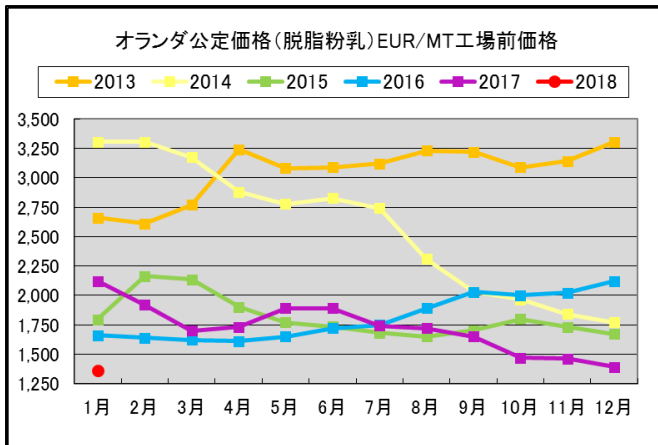
*NFDM: Non Fat Dry Milk(たんぱく非調整脱脂粉乳)

―今後の展望―

中国における昨年11月の脱脂粉乳の輸入量が1万8千トン、全粉乳も3万トンを超えており、前年同月比それぞれ53%、2%増加している。これは中国の旧正月(2018年は2月16日)の影響により需要が高まっているからだと考えられているが、このまま需要が伸びてくるようであれば、粉乳の国際相場を上昇に導く可能性もでてくる。

脱脂粉乳の国際相場については、現時点では未だ低調であるが、今後反転する可能性は十分にある。これまでは各サプライヤーの収益源であった脂肪を優先的に製造していたため、脱脂粉乳の供給も安定していたものの、脂肪の相場が下落してきていることで、各サプライヤーはチーズ、ホエイを優先的に生産する方向にシフトする動きが見られていることから、早めの確保を検討するユーザーも出てきているようである。

全粉乳については世界最大の生産国であるNZが天候不順であることや、これから乾乳期に向かっていくため、供給余力が出てくるとは考え難く、必要数量については早めに確保しておく必要があると考える。



(現在の粉乳取引価格)

EU 産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	: USD 1,850 – 2,100 /MT CFR ASIAN PORT
EU 産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	: USD 3,400– 3,800/MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	: USD 1,900 – 2,150 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	: USD 3,050 – 3,450 /MT CFR ASIAN PORT
米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)	: USD 1,900 – 2,100 /MT CFR ASIAN PORT

<鷹井>

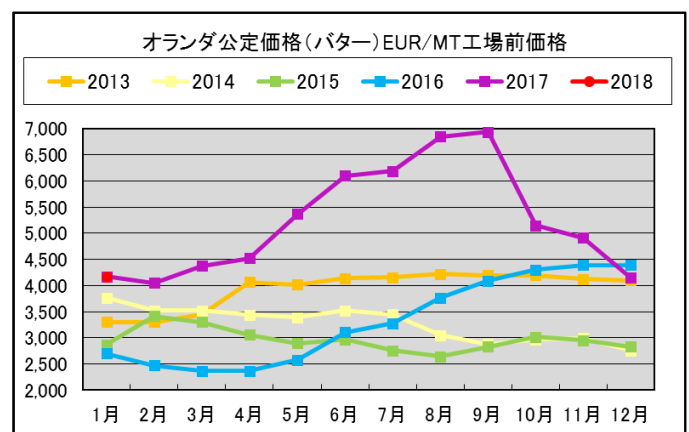
<バター情報>

- 米国産バター価格 欧州産価格に近づく -

- 欧州 -

1月の相場は穏やかに推移した。

英国を含む EU28 ヶ国の 2017 年 1 月から 11 月までのバター生産量は 196 万 3 千トンで前年同期比-1.0%と僅かに下回っている。ただし、これは年の前半で前年を大きく下回ったため、9 月以降は毎月 7%以上前年を上回っている。主な要因は、高い乳価が酪農家の生産意欲を掻き立て、生乳生産量が好調なためである。しかしながら、直近では酪農家への支払い乳価を下げた乳業メーカーが既におり、今後の生乳生産量の減少が懸念される。また、欧州の脱脂粉乳介入在庫は依然約 38 万トンある。生乳生産量の減少と脱脂粉乳過剰在庫により、バター生産にブレーキがかかる可能性がある。



- オセアニア -

1 月の GDT オークションは、AMF、バターともに上昇する結果となった。1 回目の平均落札価格は AMF が USD6,405/MT FAS(船側渡し)と前回(2017 年 12 月 19 日)比 0.2%上昇、バターが USD4,501/MT FAS と前回比 0.6% 上昇。2 回目の平均落札価格は AMF が USD6,547/MT FAS で前回比 2.2%上昇、バターは USD4,897/MT で 8.8%

上昇した。

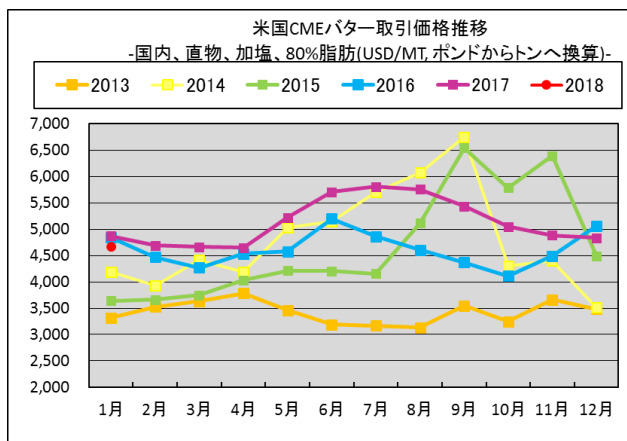
豪州の2017年7～9月のバター生産量が前年を大きく下回っていることは既報の通りであるが、国内の不足分を補うために輸入量が増えている。1～11月のバター+バターオイル輸入量は3万トンで、前年同時期比+18%と、大幅増となっている。輸入の大部分は隣国のニュージーランドからである。

－ 米国 －

1月の相場は下落、欧州産価格に近づきつつある。

1月から11月までのバター生産量は75万8千トンで、前年同時期比0.2%減と、僅かに下回っている。

2016年のバター輸入量は記録的な数字を叩き出したが、2017年のバター輸入量がそれに匹敵する数量に迫っている。一部では2016年を上回り過去最高を更新する見通しとの情報も出ている。筆頭輸入国はアイルランド。2016年もトップで輸入量の約4割を占めていたが、2017年は約6割に拡大するという予想が報じられている。



2018年1月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.24)

EU産バター価格	USD5,700～USD6,900/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD5,200～USD5,700/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD5,900～USD6,300/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩82%脂肪)価格	USD5,700～USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS

<小瀬村>

<カゼイン情報>

－ カゼイン相場、市況に引きずられ上昇探る局面 －

カゼイン相場は乳製品全体の相場に引きずられ上昇の兆しを見せている。

主要産地であるNZの生乳生産量はおおむね順調なものの、予想よりも伸びていない。その為、カゼイン生産についても限定的である。欧州の生乳生産量は順調に推移しているが、一部のサプライヤーにおいては、カゼインの製造を減らし、より利益率の高い製品を製造しようという生産調整の動きも見られている。

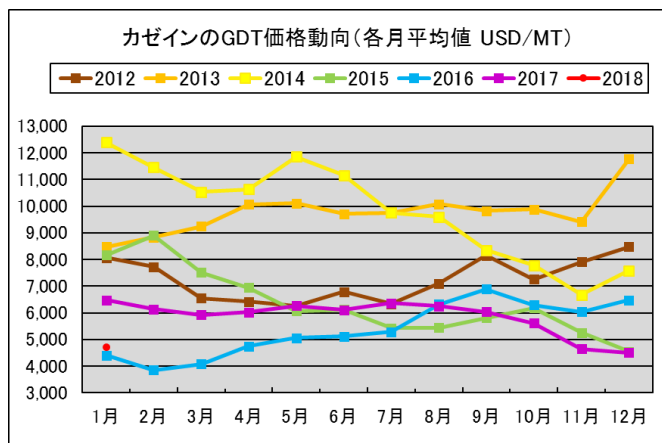
需要面においては、引き合いは年末年始の需要も落ち着き、今後の動向を探るべく買いを控えているユーザーが多い。

上記のような流れを受け、直近のgDTでは、他の乳製品と同様に価格が上昇に転じている。

今後について、オセアニアにおいては、乳シーズン終わりに向け、生乳生産量は減少していく為、カゼイン相場は多少の上昇は見られるかもしれない。一方で、EUの脱脂粉乳相場は底を打ったように見えるが、メーカーにとっては依然安値で、すぐに脱脂粉乳生産量が増加するとは考えにくく、カゼイン生産は順調に行われることが予想される。その為、他主要産地の上昇の兆しに単純にフォローすることは考えにくい。

- レンネットカゼインのGDT過去3カ月の落札価格 -

入札日	カゼイン(単位:MT)
2017年11月7日	USD5,465
2017年11月21日	USD4,644
2017年12月5日	USD4,879
2017年12月19日	USD4,506
2018年1月2日	USD4,419
2018年1月16日	USD4,709



<渡辺>

<チーズ情報>

- 独 DMK 社、独 Hochwald 社、長期固定乳価プログラム開始 -

両社は来年から酪農家と乳価を長期間固定するプログラムを開始することを発表した。両社とも全酪農家に対して行うものではなく、一部の酪農家から試験的に始めるものようである。

- ロシアのチーズ輸入量、生産量 -

ロシアのチーズ輸入量は2017年1月から11月までの累計で約20万3千トンとなっており、2017年の年間累計は22万トン程度になると思われる。禁輸前の2013年の輸入量44万トンの約半分となることになる。同国は2014年32万1千トン、2015年20万8千トンと減少を続けたが、2016年以降は20万トンを超える水準で安定し始めた。

同国の生乳生産量は約3000万トンから大きく変わっていないものと思われるが、チーズ生産量は2013年の約71万3千トンから2017年約92万5千トンまで増加している。(その分飲用乳の生産量が減少している。)

- 中国のチーズ輸入量の増加減速 -

2017年の中国の乳製品輸入量は年間を通して前年比増であった。チーズにおいては、2017年12月は2016年同月比で数量にして6,319トン、19%の減少であったことを除き年間累計では11.6%増の約10万8千トンであった。しかしながら、この増加幅は過去5年のそれに比べ、小さくなっている。2012年から2016年の平均増加率は20.1%、数量では約4万7千トンから約9万7千トンで倍増以上となっている。

12月単月の減少のみでは年間累計の減少の量に見合わないため、同国の急成長に陰りが見えてきたとも捉えられる。

- アルゼンチン Sancor 社 -

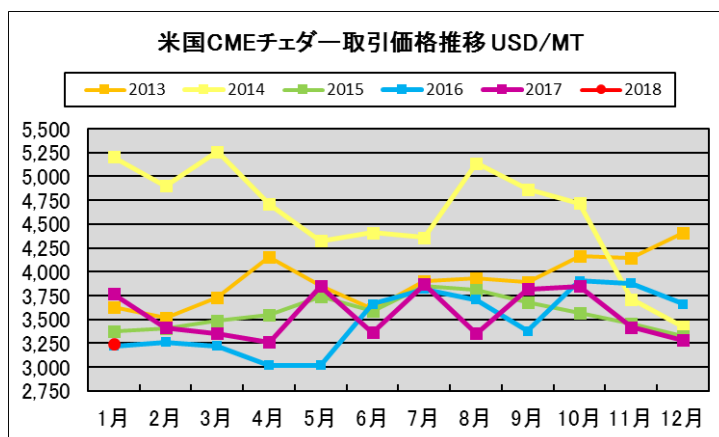
アルゼンチン最大の酪農協であるSancor社は現在経営難の状況に陥っているが、1月12日の同社臨時総会において、Arla社と出資比率50:50で保有するホエイプロテイン製造工場の株式を全てArla社へ売却することを決定した。

同工場は2000年にArla社とのJVとして設立され、チーズホエイからホエイプロテインを製造している。最終製品の生産能力は35,000トン/年。

Sancor社は経営難から酪農家離れが起きており、チーズを製造する生乳が減少していると考えられ、同JVに供給するホエイも減少したことから決定された経営判断であると考えられる。

- 米国 CME 相場 -

2018年1月のCMEスポット相場は小幅ながら下降を続け、1月26日時点でUSD3,247/MTまで下落した。2017年12月と比較してUSD33/MTの下降となっている。

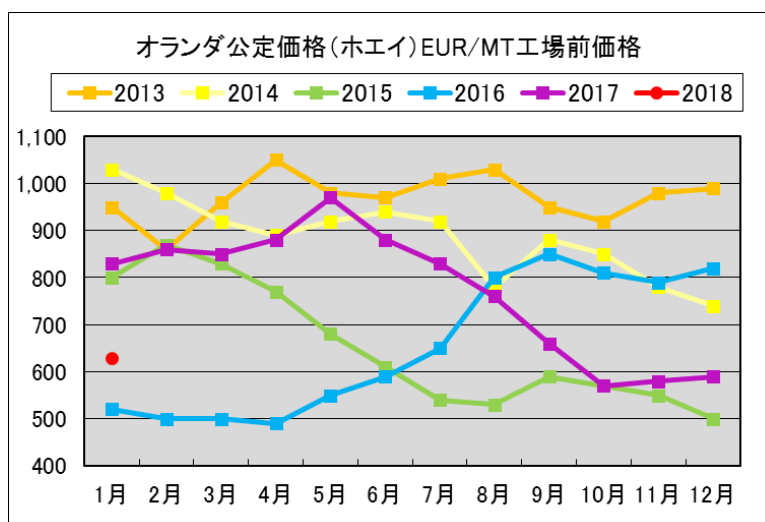


<齊藤>

<ホエイ情報>

- 米国産ホエイパウダー在庫重く、欧州産相場は上値重い -

米国産ホエイパウダーの相場は引き続き軟調。好調なチーズ生産に支えられ、ホエイパウダーも潤沢に生産されており、在庫は重たい。米国内の引き合いは弱く、中長期での契約は避けている需要者が多い。しかしながら、輸出向けの引き合いは次第に強くなっている模様。NASS(米国農務省全国農業統計局)によると、2017年11月のホエイパウダーの輸出量は2万6百トンで前年同月比15%増となっている。2017年11月の食用ホエイパウダー生産量は3万6千トン、前年同月比12.7%増。1月～11月の生産量は43万1千トン、前年同時期比8.5%増。11月末時点の在庫量は前年同月比11.9%増の4万5千トンとなっている。



欧州産ホエイパウダー相場も軟調傾向が続いている。12月末～1月初めにかけて期近の荷渡し時期の玉を確保する動きが見られたが、中長期的な玉の確保に動く需要者は殆どなく、相場への影響は限定的。米国産ホエイパウダーの相場軟調による価格圧力もあり、欧州産ホエイパウダー相場の上値は重たい。

米国産WPC-34の相場も前月同様軟調にて推移している。安定したWPC-34の生産量とWPC-34の代替品として使用される脱脂粉乳/NFDMの価格が低調に推移していることが主な要因。脱脂粉乳との置き換えができない一部の品目において、在庫がタイトになっているものもある模様。NASSによると2017年1月～11月のWPCの生産量は7万5千トン、前年同時期比1.4%増。11月末時点での在庫量は1万9百トン、前年同月比7.5%増となっている。

<今野>

<乳糖情報>

—依然低調が続く—

-欧州-

欧州産乳糖相場は、先月と状況は変わらず引き続き低調。好調な生乳生産、チーズ生産から、ホエイ、乳糖の供給は安定している。一方で需要面は特別な動きが見られず、落ち着きをみせている。

直近の乳糖相場を考えると、需給バランスを変動させる大きな要因は見当たらず、引き続き低調なまま進んでいくと予想する。しかし、中長期的には、このまま生乳量が伸びると乳価が下落するとの見方があり、結果的に生乳、乳糖の生産量減に繋がるのが考えられる。加えて、37万トンにも及ぶEU脱脂粉乳介入在庫の内、30万トンが6月までに在庫期間2年を迎えるため、どのような形で放出が行われるか、注目される。もし援助など通常の市場以外への放出が行われる場合は、将来的に脱脂粉乳の生産が徐々に戻る可能性もある。その場合、タンパク調整用途での乳糖需要も回復して、相場の潮目が変わる可能性もある。

	2016	2017	(%)
オランダ	7,412	7,601	3
フランス	1,961	1,563	-20
ドイツ	11,865	16,555	40
カナダ	3,226	2,836	-12
米国	46,381	43,055	-7
豪州	0	0	-
ニュージーランド	3,546	3,431	-3
その他	1,395	1,980	42
合計	75,786	77,022	2

-米国-

米国产乳糖相場も先月同様に低迷している。好調なチーズ生産が追い風となって、乳糖の生産も順調。11月のチーズ生産量は昨年対比2.8%増、乳糖生産量は1.4%増となっている。米国内在庫は昨年対比27.2%増と高水準を維持。好調な乳糖生産と豊富な在庫量から供給面は安定している。需要面では、秋冬の製菓向け需要が一段落したことに加え、2月中旬に控えている中国の旧正月(春節)の影響により、アジア各国からの1月積みの需要は特に落ち着きを見せている。

WPC80やWPIのような高タンパクホエイ製品と乳糖の組み合わせから単なるホエイパウダー(SWP)の製造へ切り替えを進めるメーカーが始めていることから、今後は乳糖の生産が抑えられることが予想される。しかし脱脂粉乳の相場が低迷しているため、引き続きバターと脱脂粉乳の組み合わせよりもチーズとホエイの組み合わせが優先されると見込まれるため、乳糖の大幅な生産減は考えにくい。また、欧州産とのより激しい価格競争や、需要が強まる特別な要因が見当たらないことなどから、引き続き乳糖相場は低調なままと予想する。

—米国からの乳糖輸出量(2017年1月～11月)—

1. 中国	60,036	トン
2. 日本	42,478	トン
3. メキシコ	38,771	トン
4. ニュージーランド	29,359	トン
5. オーストラリア	17,263	トン
6. シンガポール	16,319	トン
7. インド	16,091	トン
輸出量総計	325,404	トン

—米国の乳糖生産量と在庫量(2017年11月)—

乳糖生産量	39,961トン	前年比1.4%増
月末在庫	63,321トン	前年比27.2%増

<柴崎>

<国内情報>

-都府県の生乳生産減産傾向が止まらず-

-生乳生産-

農林水産省が発表した12月の全国生乳生産量は61万917トンで前年同月比0.2%増となった。地域別では北海道が33万405トンで前年同月比2.6%増、都府県は28万512トンで同比2.5%減となっている。1月26日にJミルクが発表した需給予測によると、2018年度の全国生乳生産量は前年比0.5%減の725万6,000トン(北海道397万6,000トン・前年比1.6%増、都府県327万9,000トン・前年比2.9%減)であり、都府県の生乳生産量は前年比減と予想。さらに、全国的に飲用消費が堅調に推移している中、2017年度ホクレンの生乳道外移出が前年比14%増の42万5,000トン程度になる見込みとの声がある。道内の大手乳業はこの数年、深刻な事態にこそ陥っていないものの、満身に乳製品を製造できておらず、一刻も早い都府県の生乳生産回復が求められている。

-2018年度乳製品輸入枠についてバター、脱脂粉乳の入札数量が決定-

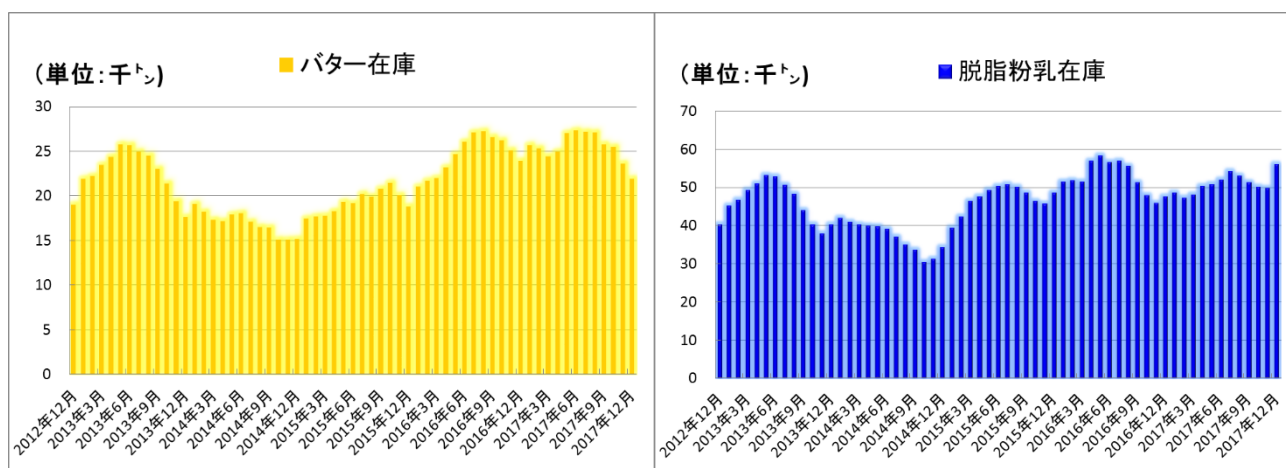
-バター-

農林水産省が発表した2017年12月のバター生産量は5,295トンで前年同月比7.0%減、在庫量は2万1,946トンで前年同月比8.1%減となった。農畜産業振興機構が1月16日に実施した入札では、入札数量2,000トンに対し、輸入業務委託に5者、2529.7トンが応札。競争倍率は1.26倍で、SBS入札では2016年4月26日入札以来となる全量落札となった。

農林水産省は1月26日、2018年度乳製品輸入枠についてバター枠は1万3,000トンに設定すると発表。今回設定した輸入枠数量を分けて、バター入札は基本的に毎月実施していく方針としている。

-脱脂粉乳-

農林水産省が発表した12月の脱脂粉乳生産量は12,342トンで前年同月比5.7%減、在庫量は56,089トンで前年同月比17.7%増となった。他方、Jミルクが発表した需給予測によれば、2018年度脱脂粉乳生産量は前年対比3.0%減と前年度を下回る見通しとなっており、2018年度の脱脂粉乳不足数量を約2万トンと予想。不足数量を補完する形で農林水産省は2018年度乳製品輸入枠について、脱脂粉乳枠を2万7,000トンに設定。今回設定した輸入枠数量を分けて、脱脂粉乳入札は隔月で実施予定となっている。



生乳生産量(2017(平成 29)年 12 月)(単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け		乳製品向け	その他
			内業務用		
平成 29 年度	611	316	28	291	4.1
前年比	100.2%	101.3%	104.3%	99.0%	96.7%

2017(平成 29)年度、バター¹の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	16,762	91.4%	15,614	99.2%	27,329	104.5%	4.6
第 2 四半期	12,598	87.6%	15,365	110.3%	27,062	101.7%	4.6
第 3 四半期	13,454	97.0%	27,170	110.5%	21,946	91.9%	3.7
第 4 四半期	17,600	103.6%	19,268	117.5%	25,478	104.1%	4.3
合計	60,414	95.0%	77,417	109.6%	25,478	104.1%	4.3

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2017(平成 29)年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	32,644	97.2%	36,643	110.1%	53,700	94.6%	4.3
第 2 四半期	25,272	92.9%	35,887	97.2%	53,085	103.3%	4.3
第 3 四半期	30,261	101.5%	30,757	86.6%	56,089	117.7%	4.5
第 4 四半期	34,100	103.7%	46,073	130.3%	50,116	104.0%	4.3
合計	122,277	99.0%	149,360	105.9%	50,116	104.0%	4.3

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<高野>

<主要生産国の乳価>

	円換算乳価 ^{※1}	適用期間	直近の乳価
日本	¥100.14/リットル	2017 年 11 月	¥97.13/kg ^{※2}
ドイツ	¥56.40/リットル	2017 年 11 月	EUR40.52/100kg
オランダ	¥57.76/リットル	2017 年 12 月	EUR41.50/100kg
アイルランド	¥58.39/リットル	2017 年 10 月	EUR41.95/100kg
米国	¥44.84/リットル	2017 年 11 月	USD18.10/100 ポンド (100 ポンド=45.3592kg)
豪州	¥38.11/リットル	2017/18 年度	AUD5.60/kg MS(乳固形 kg あたり)
NZ	¥39.59/リットル	2017/18 年度	NZD6.40/kg MS(乳固形 kg あたり)

※1 生乳 1 リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は 1.031 で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥135.00 USD=¥109.00 AUD=¥88.00 NZD=¥ 80.00

<出典> 日本:農畜産業振興機構 EU:European Commission 米国:CLAL 豪州:Murray Goulburn HP NZ:Fonterra HP

<メルボルン駐在員情報>

- Fonterra 社 豪州 7 工場の生産設備増強 集乳量約 50 万トン増加 -

Fonterra 社は豪州のヴィクトリア (VIC) 州とタスマニア州にある 7 工場の生産キャパを増強して、生乳約 50 万トンを追加で集乳する予定としている。投資金額は 1 億 6,500 万豪ドル(約 145 億 2 千万円)。これにより主要乳業会社の間で生乳争奪戦が更に加熱する引き金になると思われる。生乳約 50 万トンを確保するためには、Fonterra 社は追加で 100 以上の新しい酪農家と契約する必要があり、酪農家を確保する為に更に魅力的な条件を提示することが求められる。Fonterra 社は豪州国内での年間集乳量が 250~270 万トンに増加する見込みであることを公表している。12 月までの集乳量は昨年対比 27%増加している事も既に発表している。各工場の工事は既に進んでおり、アップグレード後の工場の稼働開始は本年 9~10 月頃と予定している。各工場の投資金額、増強予定は下記の通り。特に各乳業会社の工場がひしめく VIC 州北部に位置する Stanhope 工場のチーズ生産量の大规模増強はインパクトが大きいと思われ、乳業会社間の生乳確保競争が更に激化すると予想される。

Stanhope 工場	1 億 2,500 万豪ドル	(約 110 億円)	チーズ生産量 4 万 5 千トンから 8 万トンへ
Wynyard 工場	970 万豪ドル	(約 8 億 5 千万円)	タスマニア州のCHEDDAR 生産量 8.5%増加
Darnum 工場	700 万豪ドル	(約 6 億 2 千万円)	粉乳生産量の増強
Cobden 工場	1,350 万豪ドル	(約 11 億 9 千万円)	バター製造量増強
Dennington 工場	860 万豪ドル	(約 7 億 6 千万円)	粉乳 25kg 充填設備を含む生産量増強
Spreyton 工場	180 万豪ドル	(約 1 億 6 千万円)	タスマニア州の乳糖生産量増強

また Fonterra 社は契約酪農家に酪農協同組合への組織変更を提案している。Bonlac 社から Fonterra 社に買収された時に交わされた供給に関する合意書(最大乳業会社の MGC が乳価を上げた場合はそれに合わせるという約束)は 2018 年 6 月に失効となり、その代わりに酪農協同組合という新しい組織変更を提案するものである。元々 MGC 買収競争の際には、豪州乳業の 1 番手と 2 番手の合併で豪州メガ酪農協同組合を作る提案を行なったものの、MGC 社経営陣の下した最終決定は Saputo 社の 13 億豪ドル(約 1,144 億円)を選択することであった。Fonterra 社は未だに酪農家からの人気は低く、乳価が高ければ供給してもよいという酪農家の声大きい。2016 年に MGC 社が経営不振による財政難で乳価を大幅に下げ、支払い済みの金額を回収するという前代未聞の事態に陥ったが、この時に Fonterra 社が NZ 本社で過去最大の収益を上げていたにも関わらず MGC 社乳価に合わせて大幅に乳価を下げた事が、許されざる記憶として業界に残っている。一方で Fonterra 社は既存の契約酪農家以外の酪農家を増やす必要があり、上述の通り 1 億 6,500 万豪ドル(約 145 億 2 千万円)の投資を行い 7 工場の製造設備を増強して集乳量を大幅に増加させる。

乳業会社間の生乳確保競争は激化すると思われ、特に Fonterra 社は酪農家に対して今後更に積極的な乳価を提示してくると予想される。また酪農協同組合の組織変更については、豪州主要乳業会社の中では最後の酪農協同組合の形であった MGC は海外企業に買収されるが、それに落胆した元 MGC 酪農家は少なくない。それらの酪農家にとっては Fonterra 社の酪農協同組合の提案は魅力的なものかもしれない。この提案の詳細については 3 月末までに発表するとしている。タイミングとしては Saputo 社の MGC 社買収の最終合意内容に影響が出る可能性もあると思われる。

※ 1 豪州ドル=88 円換算 1 千万円未満は四捨五入

<松本>

<米国駐在員情報>

鈍化する米国のオーガニック牛乳市場

米国におけるオーガニック牛乳の販売は引続き伸びているものの、その伸び率は一時と比べるとかなり鈍化している。2016年には前年比5.5%増の販売量となったオーガニック牛乳であるが、2017年1月から10月までの販売量は97万1,560トンで前年同期比僅か0.5%増の伸びに留まっており、残る11月、12月の販売量も落ち込む事が予想される。

アナリストの調べでは、2017年におけるオーガニック牛乳の販売は数量ベースでも金額ベースでも減少に転じたと報告されている。依然として全脂タイプの飲用乳の需要は増えているものの、通常タイプと比べ、オーガニックの伸び率は鈍化している。2010年から2016年までの間に全脂タイプのオーガニック牛乳の販売は毎年平均14.3%ずつ成長していたが、2017年1月から10月までの累計では前年同期比僅か7%の増加に留まっている。

ウォールストリートジャーナルは、これまでオーガニック牛乳を飲んでいた消費者が、これに代わるものとして植物由来のミルクにシフトしていると報じている。一方で、米国農務省(USDA)の報告によればオーガニック乳牛の飼育頭数は2000年から2005年にかけては毎年平均25%増えており、2016年には267,523頭にまで達した。この数字は僅か2年で10%以上も飼育頭数が増えたこととなり、今後もオーガニック牛乳の供給は増える続ける事が予想される。

しかしながら、オーガニック牛乳の供給量の伸びが需要量のそれを上回っている事から価格も下落傾向にある。USDAは、主要29都市において2017年1-2月に平均4.31ドルであった0.5ガロン(1.9リットル)のオーガニック牛乳の価格は、同年11月には4.14ドルまで下落し、12月には4.22ドルに回復したと報告している。米国の酪農生産者は乳価の下落に苦しんでいる中で、2017年にオーガニック牛乳の価格は1/3近くまで下落したともUSDAのアナリストは伝えており、今後もオーガニック牛乳の生産への新規参入と生産量増加が続くようであれば、更なる乳価の下落も考えられるとしている。

12月の主要23州生乳生産量

米国農務省(USDA)の発表によると12月の主要23州の生乳生産量は771万8千トンで前年同月比1.2%増となった。

先月発表の11月の生乳生産量は前年同月比1%増の735万4,800トンに修正された。

主要23州における12月の一頭当たりの平均搾乳量は約882キロで前年同月を約5キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来10月単月の数字としては過去最高となった。

主要23州における12月の平均乳牛頭数は874万頭と発表され、前年同月比54千頭増となり、前月比では3千頭増となった。

2017年第4四半期(10-12月)の全米生乳生産量

2017年第4四半期の全米生乳生産量は2,410万7,400トンで前年同期比1.1%増となった。全米平均乳牛頭数は940万頭と発表され、前年同期比では5万5千頭増となったが、前期比では3千頭減となった。

2017年10月主要州別生乳生産量(前年同月比)

カリフォルニア州	1,530,434 トン	-0.3%	(-4,086 トン)
ウィスコンシン州	1,155,884 トン	+1.0%	(+11,804 トン)
ニューヨーク州	553,426 トン	-2.2%	(-12,258 トン)
アイダホ州	547,524 トン	-0.2%	(-1,362 トン)
テキサス州	467,620 トン	+8.1%	(+34,958 トン)
ミシガン州	423,582 トン	+2.5%	(+10,442 トン)
ペンシルバニア州	415,864 トン	+0.5%	(+2,270 トン)
ミネソタ州	374,550 トン	+1.1%	(+4,086 トン)
ニューメキシコ州	312,806 トン	+3.1%	(+9,534 トン)
ワシントン州	245,614 トン	-1.1%	(-2,724 トン)

2017年11月米国産主要乳製品生産量

バター	66,284 トン	前年同月比 +1.8%	前月比 +1.6%
チーズ	476,700 トン	前年同月比 +2.8%	前月比 -2.0%
（うちアメリカンタイプチーズ）	182,054 トン	前年同月比 +0.6%	前月比 -4.0%
（うちイタリアンタイプチーズ）	206,570 トン	前年同月比 +3.6%	前月比 -0.6%
NFDM	63,560 トン	前年同月比 +9.7%	前月比 -2.9%
SMP	18,977 トン	前年同月比 -11.9%	前月比 +63.1%
ホエイパウダー	37,133 トン	前年同月比 +11.6%	前月比 +1.3%
WPC	18,466 トン	前年同月比 +3.6%	前月比 -0.9%
乳糖	39,997 トン	前年同月比 +1.4%	前月比 -5.5%

2017年11月末米国産主要乳製品在庫量

バター	72,303 トン	前年同月比 -1.0%	前月比 -1.0%
チーズ	571,394 トン	前年同月比 +6.0%	前月比 +6.0%
（うちアメリカンタイプチーズ）	332,954 トン	前年同月比 +3.0%	前月比 +3.0%
NFDM	136,955 トン	前年同月比 +40.2%	前月比 +0.5%
ホエイパウダー	45,535 トン	前年同月比 +65.5%	前月比 +6.8%
WPC	36,695 トン	前年同月比 +23.9%	前月比 +5.6%
乳糖	63,370 トン	前年同月比 +27.2%	前月比 +0.1%

2017年12月末米国産主要乳製品在庫量

バター	76,757 トン	前年同月比 +2.0%	前月比 +6.2%
チーズ	581,375 トン	前年同月比 +7.0%	前月比 +1.7%
（うちアメリカンタイプチーズ）	339,069 トン	前年同月比 +3.0%	前月比 +1.8%

<佐藤>

<アムステルダム駐在員情報>

-EU 脱脂粉乳介入在庫売り渡し状況-

1月16日に行われたEU脱脂粉乳介入在庫の放出入札では、入札対象数量を今迄の5倍近い10万1,061トンに増やしての開催となった。これに対して2万5,764トンの応札があり、過去最高の1,864トンが落札となった。

介入在庫で最も古い脱脂粉乳は2015年7月製造のもので、2016年3月以前に製造されたロットの合計は未だ10万トン程度残っている。このことから昨年11月の入札より飼料用原料として購入を検討し、応札価格を大きく下げて入札する参加者が現れ、応札数量は増えた。しかし、EU政府は落札価格を大きく下げることせず、11月は40トンだけの落札、12月は全量不落となった。

今回の最低落札価格は、最後に落札のあった11月の落札価格よりも15%近く下げた。

次回入札は2月20日の開催予定で、対象数量は9万9,156トンを見込んでいる。未だ37万トンを超える在庫を抱え、その殆どが2016年9月以前に製造されたロットであり、今後も下値を探る展開が続くものと思われる。

EU 介入在庫放出入札結果

入札日	入札対象数量	応札数量	落札数量	応札価格	最低落札価格
2016年12月13日	22,150mt	19,707mt	40mt	EUR1,751-2,200/mt	EUR2,151/mt
2017年1月3日	21,962mt	11,914mt	0mt	EUR1,651-1,961/mt	-
2017年1月17日	21,962mt	7,489mt	0mt	EUR1,550-1,900/mt	-
2017年2月7日	21,962mt	1,796mt	0mt	EUR1,550-1,850/mt	-
2017年2月21日	21,962mt	1,386mt	0mt	EUR1,400-1,803/mt	-
2017年3月7日	21,962mt	136mt	0mt	EUR1,650-1,668/mt	-
2017年3月21日	21,962mt	336mt	0mt	EUR1,400-1,668/mt	-
2017年4月18日	21,962mt	240mt	0mt	EUR1,380-1,632/mt	-
2017年5月16日	21,962mt	240mt	0mt	EUR1,380-1,634/mt	-
2017年6月20日	21,962mt	1,340mt	100mt	EUR1,380-1,850/mt	EUR1,850/mt
2017年7月18日	21,862mt	120mt	0mt	EUR1,680-1,750/mt	-
2017年9月19日	21,862mt	40mt	0mt	EUR1,593-1,593/mt	-
2017年10月17日	21,821mt	1,790mt	40mt	EUR1,201-1,440/mt	EUR1,440/mt
2017年11月21日	21,780mt	33,195.2mt	40mt	EUR 800-1,390/mt	EUR1,390/mt
2017年12月12日	21,740mt	13,472mt	0mt	EUR 801-1,300/mt	-
2018年1月16日	101,061mt	25,764mt	1,864mt	EUR 700-1,350/mt	EUR1,190/mt

<藤井>

お問い合わせ先:
株式会社ラクト・ジャパン
webmaster@lacto-japan.com

出典:
AGRA EUROPE 各誌
Dairy Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
日刊酪農乳業速報
Rice Dairy
NZ Herald
Stuff.co.nz
食品産業網
Weeklytimes
USDEC Export Trade Data
Global Trade Information Service
USDA's Dairy Market News
Australian Financial Review
食品産業サイト
経済日報
東方ネット
長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。